

屋根に降り積もった雪

変化する雪の重さは見た目だけではわからない

- 屋根に雪が降り積もった後、時間がたつとともに重くなっていく
- 雨や雪融け水を含むと雪は更に重くなり、重さで家屋などが破損することがある
- 家屋の破損を防ぐには雪おろしが必要だが、雪おろしは転落事故のリスクがある

■ 屋根の上の重い雪

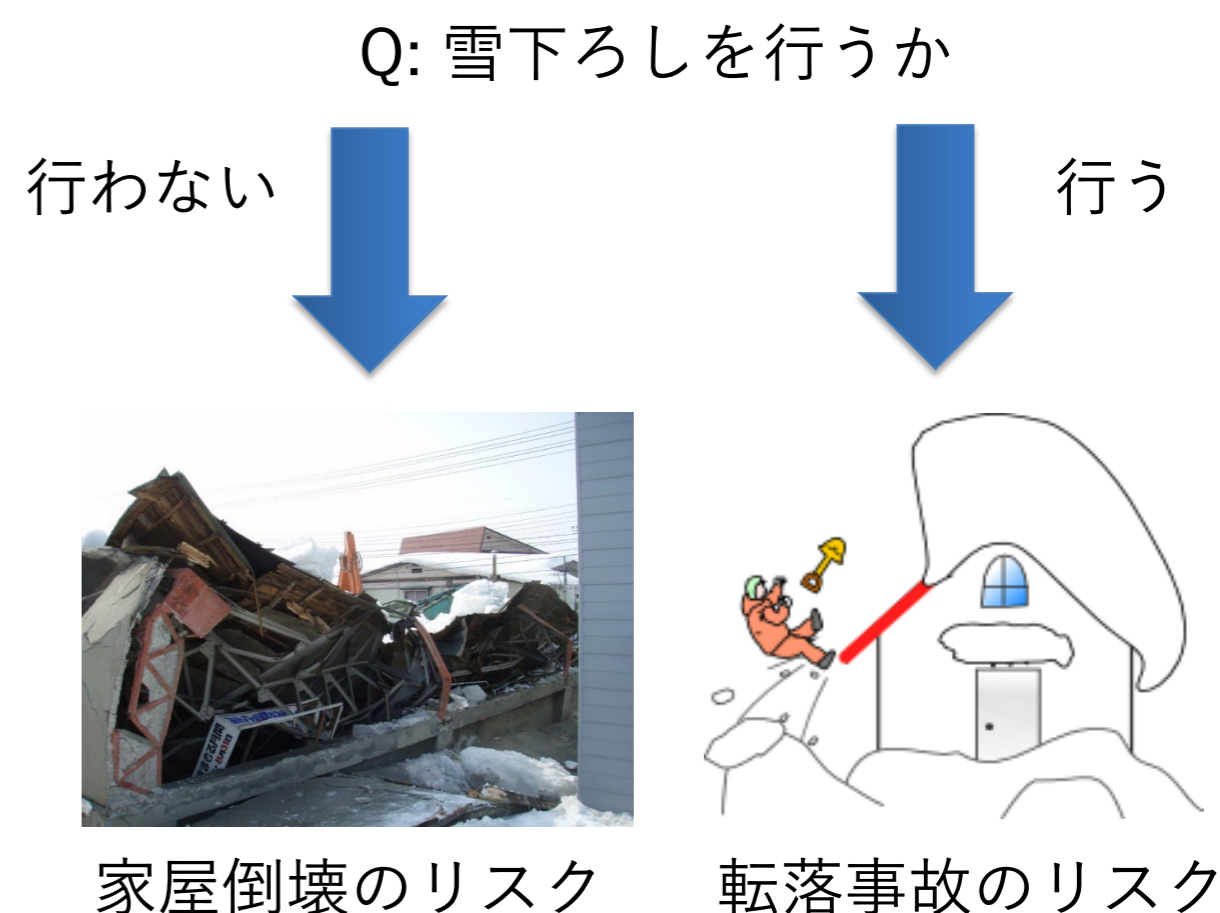
- 屋根に降り積もった雪は冬の間に蓄積されていき、降雪のたびに重くなっていく。
- 降ったばかりの雪の密度は水の10分の1以下と軽いが、圧密により徐々に密度が増えて重くなる。特に、雨水や雪融け水を含むと更に重くなり、雪解けの時期には水の半分程度の密度になる。
- 雪の密度は変化していくため、同じ積雪深でも時期によって重さは何倍も変わってくる。
- 重くなった雪は、家屋やカーポート、ビニールハウスなどに強い力をあたえるため、それらを破損・倒壊させることがある。



大雪により屋根に降り積もった雪は、家屋を破損・倒壊させることがある。

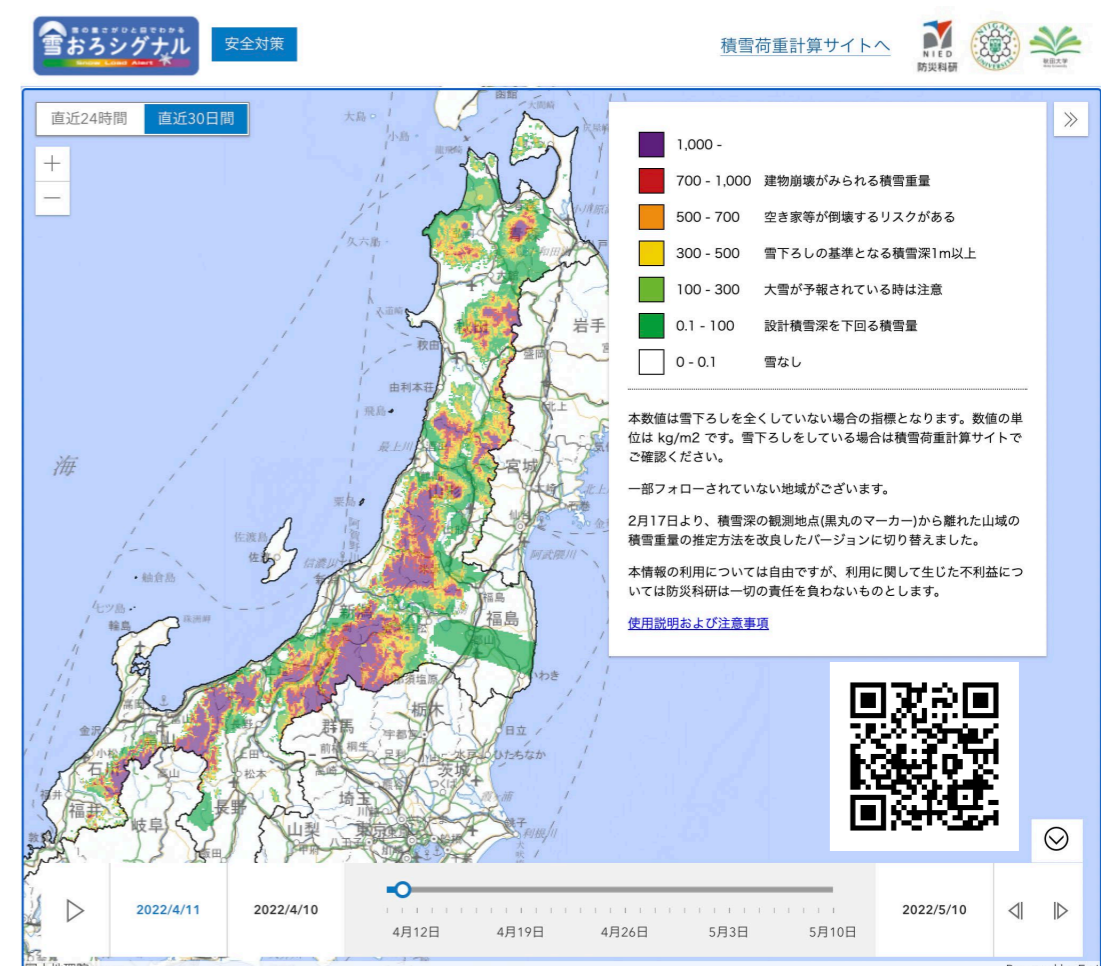
■ 屋根雪事故をなくすために

- 重くなった雪による家屋の破損を防ぐには、屋根に登って雪下ろしを行う必要がある。しかし、雪下ろしは屋根からの転落の危険があり、その事故による犠牲者は雪氷災害の中で最も多い。
- 事故を防ぐためには、雪下ろしをする際に一人ではやらないことや、命綱やヘルメットを装着することなどの安全対策が必要である。



■ 適切な雪おろしの判断にむけて

- 雪下ろしは転落事故のリスクがあるため、本当に雪下ろしが必要なタイミングかどうか見極めて行うことが望ましい。
- 一般的には1mを超えた時に雪下ろしが行われることが多いが、家屋が破損するかどうかは深さより重さの方が影響が強い。しかし雪の密度が大きく変化するため、見た目だけでは重さはわからない。
- 雪下ろしを行うか判断するためのツールとして、雪おろシグナルがある。雪の密度や水の移動を計算して見積もった雪の重さを、家屋に与える危険度の大きさに基づいて色付けし、公開している。



雪おろシグナルの画面

